

6.3 教育方法のあり方

進捗状況報告

(1) 2003年度自己点検・評価項目に設定した目標、および(2) 2005年度自己点検・評価で記した「改善の具体的方策」に関する進捗状況

1. 各講義のシラバスを、従来通りホームページで公開することで、目標と計画を意識した講義を組み立てる努力をしている。さらに講義資料等をネットワーク上で公開する形の講義も増やしている。授業評価アンケートについても、従来通り実施して授業の改善に役立っている。新しい指導形態として2007年度より導入した「共同演習」では、複数教員によるアドバイスによって研究指導を充実させる努力をしている。
2. 「夏季研究会」、「ランチタイム・ワークショップ」、および「経済学ワークショップ」など、様々な研究発表の機会を大学院生に提供することで、プレゼンテーション能力の向上に努めている。さらに学部開講科目のTAに大学院生を積極的に活用することで、大学院生の教育能力の向上に役立っている。
3. 遠隔授業はまだ実施されていない。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

現在の受講生数では、遠隔授業の必要性がないと判断している。

学内第三者評価

2003年度に設定した目標と2005年度の改善の具体的方策が順調に進められている。なお、そのことによる効果について記述されることが望まれる。進捗状況報告の3. 遠隔授業の未実施の理由を明示することが望ましい。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
前項でも記したが、複数教員による「共同演習」は学位授与基準の公平性・透明性を担保する試みとして評価できる。
大学院生のプレゼンテーション能力や教育能力の向上に配慮した取り組みは優れている。